

## 片山信夫教授の業績

松本, 達郎  
九州大学理学部

<https://doi.org/10.15017/4706155>

---

出版情報 : 九州大学理学部研究報告. 地質学. 11 (2), pp.209-214, 1973-12-15. 九州大学理学部  
バージョン :  
権利関係 :

## 片山信夫教授の業績

松本達郎

Academic records of Professor Nobuo KATAYAMA

Tatsuro MATSUMOTO

### Abstract

Academic records of Professor Nobuo KATAYAMA are concisely described on the occasion of his retirement on April 1st, 1973 from Kyushu University.

From 1933 to 1951 Dr. KATAYAMA's research works were primarily concerned with morphology of various kinds of minerals, of which that of Daiton sulphur is a celebrated example. Furthermore during the period of his engagement with the Geological Survey of Japan (1939-49), Dr. KATAYAMA contributed valuable reports on ore deposits of jarosite, among many others. After he came back to the University of Tokyo in 1949, Professor KATAYAMA gave outstanding contribution to the genesis of germanium and uranium deposits. This work was developed to the general problem on the relation of water and ore deposits, which he continued to study in Kyushu University. The results are summarized in a paper by himself in this volume.

### 序

片山信夫教授は昭和48年4月1日付けで、九州大学理学部を定年で退官された。先生は東大での在職期間が長く、その退官の際に記念事業に当たるお祝いを受けられたということで、九大退官に際しては、特別に記念出版をするような事業はしないようにという御意向を示された。これをお受けして、私どもはそのような事業会は設けず、広く多くの方々に呼びかけて寄稿をお願いすることをさしひかえた。

しかしこの機会に先生の業績をまとめて記録しておくのは、当然なすべきことと考えるので、地質学教室の編集委員会の合意を得て、本号に片山教授の功績を記し、略歴ならびに業績表を添えることとした。片山教授の九大における最終講義“鉱床と水”の内容は、本号に掲載されている。

なお、ここに掲げた近影は、教室の研究室で、研究者たちと談笑のうちに学問的の論議をしていらっしやる、九大在職中の平素の片山先生のスナップ写真である。先生が今後も私どもに学問的の刺戟を与えたり、針路について示唆を与えたりして下さるよう、祈念する次第である。

略歴表・業績表などの作成については、広渡文利・

島田允堯両氏の注意深い助力をいただいた。写真は秦野裕氏の撮影による。記して謝意を表する。

### 功績の概要

片山信夫先生は、1933年3月東京帝国大学理学部鉱物学科卒業後、直ちに同学同学部の助手となり、伊藤貞市先生を助けて、鉱物学の研究・教育の向上に貢献した。1939年3月商工技官に任ぜられ、1949年6月まで地質調査所(戦時中地下資源調査所とよぶ)に勤務し、1948年8月には同所鉱床部長心得金属課長となったが、この間国内・国外の地下資源調査・研究・開発に重要な功績があった。1949年6月東京大学教授となり、教養学部勤務、新制度の大学における教育と研究に1970年3月まで20年余り努め、その功績により1970年5月東京大学名誉教授となった。1969年には九州大学の兼任教授であったが、1970年4月には九州大学教授となり、非金属鉱床地質学講座を担当し、増設後間もないこの講座の教育・研究の充実につくした。1972年4月には、九州大学理学部附属島原火山観測所長を兼務し、これまた新設後間もない同観測所の管理・運営に力をつくした。

片山先生の研究業績は添付目録のように多数あり、かつその範囲が広い。比較的初期には鉱物結晶の形態的研究に主力が注がれ、数多くの成果中、大屯硫黄に

関する論文によって1948年3月東京帝国大学から理学博士の学位が授与された。

戦時中地質調査所在職中は、鉱床の調査研究に力を尽くし、とくに国内のカリ資源としてのミョウバン石鉱床の調査・研究をしたほか、国外にもしばしば出張し、老開のリン鉱床、バンドン郊外のテツミョウバン石鉱床の精査・開発にはいちじるしい業績をあげた。戦後は、国内のテツミョウバン石鉱床の開発と利用研究に成果をあげ、また日本学術振興会の第111鉱物新活用委員会の委員、第二代の委員長として活躍し、とくにゲルマニウムとウランの資源とその鉱物については、すぐれた成果が公刊されている。ウランについては、国内で注目される以前から、まずその探査に適した放射能測定装置の開発に尽力し、その結果を公にした。そして人形峠のウラン鉱床の調査研究に力を注ぎ、その成果を数多くの報文として発表した。とくに1958年のジュネーブの国連原子力平和利用国際会議では、専門委員会の議長の1人として、日本のウラン資源に関する実状を海外に認識させるとともに、ウラン鉱床の成因に関する新しい考えを発表した。ウラン鉱床の研究の過程で、鉱床の生成には水がきわめて重要な役割を演じることを知り、その後水と鉱床の関係をいろいろな角度から検討し、その成果を逐次発表してきたが、今回まとめて本号に寄稿された。

片山信夫先生は上記の専門的な研究業績をあげるかわら、地学教育、とくに戦後のいわゆる地学について、早くから天文をも含めた広い分野の総合を心がけ、東京大学の講義でそれを実践に移すとともに、「地学精義」「地学の教養」などの教養課程の教科書および高等学校の地学教科書などをも著して、地学教育の内容の充実と組織化に貢献した。現在も特定研究「地学教育」の委員として活躍を続けている。

片山信夫先生は日本鉱物学会の評議員・会長を歴任のほか、Mineralogical Journalの編集長として長年つくされ、また日本鉱山地質学会の評議員・副会長、日本原子力学会の理事、日本学術会議鉱物学研究連絡委員などをも歴任し、学界の運営・発展のために大きく貢献した。

#### 片山信夫教授略歴

明治43年1月17日 東京に生れる

#### 学歴・資格

昭和5年3月 第一高等学校理科甲類卒業  
 “ 8年3月 東京帝国大学理学部鉱物学科卒業  
 “ 23年3月 理学博士(主論文: Daiton-sulphur)

#### 職歴・併任

昭和8年3月 東京帝国大学助手, 理学部勤務  
 “ 13年6月 東京帝国大学講師, 理学部勤務  
 “ 14年3月 商工技師, 鉱山局勤務, 地質調査所勤務  
 “ 15年10月 地質調査所技師, 第2部勤務, 第4部勤務(兼)  
 “ 18年3月 陸軍技師, 補第16軍軍政監部附  
 “ “ 7月 バンドン地質調査所勤務  
 “ 21年6月 商工技官, 地下資源調査所勤務, 第2部第1課長  
 “ 23年8月 商工省工業技術院地質調査所鉱床部長心得, 金属課長  
 “ 24年6月 東京大学教授, 教養学部勤務  
 “ 28年4月 電気通信大学講師(併)  
 “ “ 5月 東京大学大学院数物系研究科鉱物学課程担当  
 “ 31年7月 通産省工業技術院地質調査所調査員(併)  
 “ 40年4月 東京大学農学部講師(併)  
 “ 44年7月 九州大学教授(併)  
 “ 45年4月 九州大学教授へ配置換, 理学部非金属鉱床地質学講座担当, 大学院理学研究科担当  
 “ “ 5月 東京大学名誉教授  
 “ 47年4月 九州大学理学部附属島原火山観測所長(併)  
 “ 48年4月 停年退職

#### 嘱託・委員

昭和16年9月 外務省仏領印度支那資源調査団員  
 “ 31年11月 通産省地下資源開発審議会委員  
 “ 32年3月 原子燃料公社探鉱委員会委員  
 “ “ 7月 日本学術会議原子力特別委員会委員  
 “ “ 8月 日本学術会議地質学研究連絡会委員  
 “ 33年4月 国際鉱物学連合創立総会(マドリッド)日本鉱物学会代表  
 “ “ 8月 第2回原子力平和利用国際会議(ジュネーブ)日本政府代表顧問  
 “ “ 12月 日本学術会議鉱物学研究連絡委員会委員  
 “ 34年4月 文部省学術奨励審議会委員  
 “ “ 7月 科学技術庁技術士試験委員  
 “ 35年4月 国際鉱物学連合第2回総会(コペンハーゲン)日本鉱物学会代表  
 “ “ 4月 国際鉱物学連合第3回総会(ワシントン)日本鉱物学会代表



*N. Katayama*

- 昭和38年9月 東京大学教養学部連絡委員会委員
- ” 42年4月 東京大学放射性炭素年代測定装置委員会委員
- ” 43年5月 文部省学術審議会専門委員会委員
- ” 43年9月 東京大学総合研究資料館運営委員会委員
- ” 44年5月 日本学術会議国際鉱物学連合第7回総会および国際鉱床学連合第3回総会組織委員会委員

学会・役員

- 日本鉱物学会 会長（昭和39年—43年）  
 鉱物学雑誌, 編集委員長（昭和27年—33年）  
 Mineralogical Journal, 編集委員長  
 （昭和28年—37年）
- 日本鉱山地質学会 副会長（昭和39年—昭和40年）
- 日本原子力学会理事（昭和39年—41年）

評議員を勤めたことのある学会

- 日本地質学会, 東京地学協会, 日本岩石鉱物鉱床学会, 日本鉱物学会, 日本鉱山地質学会, 日本原子力学会, 日本質量分析学会

片山信夫教授 (Prof. Nobuo KATAYAMA)

業績目録

論文

1. 1933 七宝山長石の双晶に就いて. 地質雑, 40, (477), 331—336.
2. 苗木産ガドリ石結晶. 地質雑, 40, (478), 493.
3. 荒川産閃亜鉛鉱結晶. 地質雑, 40, (480), 609.
4. 神岡産閃亜鉛鉱結晶. 地質雑, 40, (480), 610.
5. 足尾産黄鉄鉱結晶. 地質雑, 40, (481), 664—665.

6. 小坂産銅藍結晶. 地質雑, 40, (481), 665—666.
7. 伊豆土肥産濃紅銀鉍結晶. 地質雑, 40, (482), 723—726.
8. 本邦産の特異な黄銅鉍結晶に就いて. 地質雑, 40, (482), 726—729.
9. 美濃苗木産ガドリ石結晶続報. 地質雑, 40, (482), 739—740.
10. 奈良県針道峠産黄鉄鉍結晶. 地質雑, 40, (483), 776—779.
11. 大分県尾平産硫砒鉄鉍結晶. 地質雑, 40, (483), 811.
12. 1934 別子及須崎産黝銅鉍結晶. 地質雑, 41, (484), 42—43.
13. 長野県常磐産接触鉍物記事 I., ベスブ石及び石榴石に関する予報. 地質雑, 41, (486), 139—141.
14. 青森県奥戸産硫砒銅鉍結晶. 地質雑, 41, (486), 151—152.
15. 奥秩父産方解石. 地質雑, 41, (486), 152—153.
16. 兵庫県竹野鉍山産方解石結晶. 岩鉍, 11, (1), 27—29.
17. 岡山県吉岡鉍山産方解石結晶. 岩鉍, 11, (1), 29—30.
18. 苗木産緑柱石結晶. 岩鉍, 11, (1), 30.
19. 静岡県徳倉産緑簾石結晶. 岩鉍, 11, (2), 72—73.
20. 長野県武石産緑簾石結晶. 岩鉍, 11, (2), 73—75.
21. 福岡県広谷産緑簾石結晶. 岩鉍, 11, (2), 75.
22. 京都産褐簾石結晶. 岩鉍, 11, (4), 164—166.
23. 江原道北洞金山産金の結晶. 岩鉍, 11, (5), 232—234.
24. 〔神山貞二・——〕: 神奈川箒沢産珪灰石. 岩鉍, 11, (6), 267—272.
25. 1935 黄銅鉍, 栃木県足尾銅山(2)特にその閃亜鉛鉍との平行連晶に就いて. 日本鉍物資料統, 1, 52—53.
26. 鋼玉, 咸鏡北道暢谷. 日本鉍物資料統, 1, 61—62.
27. 〔——・小池四郎〕: 石榴石, 長野県常盤. 日本鉍物資料統, 1, 104—106.
28. 輝石, 静岡県和田木, 主としてその規則的結合に就いて. 日本鉍物資料統, 1, 135—140.
29. カリ長石, 平安南道竜溪里その他. 日本鉍物資料統, 1, 165—166.
30. カリ長石, 江原道金剛山その他. 日本鉍物資料統, 1, 167—169.
31. カリ長石(月長石), 咸鏡北道明川地方. 日本鉍物資料統, 1, 170—171.
32. カリ長石, 咸鏡北道七宝山, 主としてその規則的結合に就いて. 日本鉍物資料統, 1, 172—178.
33. カリ長石(微斜長石), 咸鏡南道孢子鉍山. 日本鉍物資料統, 1, 179.
34. 曹長石, 江原道金剛山. 日本鉍物資料統, 1, 180—182.
35. 〔——・中本明〕: 珪灰石, 神奈川県箒沢. 日本鉍物資料統, 1, 183—196.
36. 〔豊田英義・——〕: 青森県岩木山産硫黄. 岩鉍, 14, (6), 282—283.
37. 1936 鏡北道上八洞産アルカリ角閃石. 岩鉍, 15, (5), 234—239.
38. 1937 〔——・柴田勇・犬塚英夫〕: 針鉄鉍, 黄海道載寧鉄山・三菱下聖鉄山. 日本鉍物資料統, 2, 45—47.
39. 〔豊田英義・——〕: ベスブ石, 江原道耳基里. 日本鉍物資料統, 2, 64—65.
40. 〔豊田英義・——〕: 透輝石, 江原道耳基里. 日本鉍物資料統, 2, 68—70.
41. 透輝石, 咸鏡北道春興洞. 日本鉍物資料統, 2, 72—73.
42. 〔——・中本明〕: 灰鉄輝石, 岐阜県神岡鉍山, 山口県長登鉍山・大分県尾平鉍山. 日本鉍物資料統, 2, 73—76.
43. 曹鉄輝石, 咸鏡北道. 日本鉍物資料統, 2, 77—89.
44. アルカリ角閃石, 咸鏡北道白頭山. 日本鉍物資料統, 2, 94—96.
45. アルカリ角閃石, 咸鏡北道桃花洞. 日本鉍物資料統, 2, 96—97.
46. カリ長石, 咸鏡北道鶴舞山. 日本鉍物資料統, 2, 103.
47. 1938 〔南英一・——〕: 石川県中宮産ヘッス鉍. 地質雑, 45, (533), 269.
48. “大屯硫黄”及び知床産硫黄結晶に就いて(ベーター硫黄の同質異像仮晶). 地質雑, 45, (533), 269—270.
49. 1939 黄銅鉍の双晶に就いて. 徳永先生記念論文集, 60—64.
50. 静岡県下田町万蔵山加里石英粗面岩調査報文. 肥料資源第8特別委員会報告, 1—10.

51. 1941 兵庫県柘原明礬石鉱床調査報告. 肥料資源第8特別委員会報告, (5), 1—7.
52. 広島県勝光山明礬石鉱床概査報告. 肥料資源第8特別委員会報告, (6), 1—6.
53. 兵庫県福山明礬石鉱床概査報告. 肥料資源第8特別委員会報告, (7), 1—5.
54. 福井県内富鉱山閃長岩調査報告. 肥料資源第8特別委員会報告, (8), 1—6.
55. 1947 長野県諏訪鉄山の鉄明礬石鉱床調査報告. 地調速報, (21), 1—9.
56. 北海道知床半島の鉄明礬石鉱床調査報告. 地調速報, (32), 1—9.
57. 1948 北海道十勝岳の鉄明礬石鉱床調査報告. 地調速報, (39), 1—7.
58. 鉄明礬石からカリ肥料を製造する中間工業試験概報. 地調速報, (40), 1—8.
59. Daiton-sulphur. *Sci. Pap. Coll. Gen. Educ. Univ. Tokyo*, 1, (1), 91-102.
60. [——・鈴木篁・井野司郎・中川雅直]: 鉄明礬石利用の研究(第2報), 鉄明礬石の回転窯焼成による鉄カリ肥料製造法の工業化試験. 工業化学雑, 55, (636), 196—198.
61. [——・佐藤恭]: Photomultiplier を用いて鉱物の光学性を測定する装置. 鉱物雑, 1, (2), 73—77.
62. [——・高野幸雄・加藤一郎・加藤敏郎・中川進]: 秩父鉱山橋掛沢, 石灰沢及び出会付近のスカルン鉱物の産状. 鉱物雑, 2, (1), 46—52.
63. The number of counts of beta-rays detected by an end-window Geiger-Mueller counter. *Min. Jour.*, 1, (3), 170—184.
64. 1955 Beta-radioactivity of air in galleries. *Sci. Pap. Gen. Educ. Univ. Tokyo*, 5, (2), 171-177.
65. The number of counts of beta-rays detected by an end-window Geiger-Mueller counter (Part II). *Min. Jour.*, 1, (5), 303-312.
66. 1956 [——・藤本順吉]: 瑞浪地区第三系のフッ石化帯. 原子力学会誌, 7, (2), 97—99.
67. [——・真島鉄柱]: 坑内室内兼用ベーター線精密測定装置DC-P1型. 鉱山地質, 6, (21), 162—168.
68. 1957 The sedimentary environment of the uraniferous bed of the Ningyô pass. *Sci. Pap. Coll. Gen. Educ. Univ. Tokyo*, 7, (1), 131-144.
69. 1958 人形峠のウラン鉱床. 岡山大温研報告, (19), 57—59.
70. [——・梅沢邦臣]: 7万5千分の1鬼首地質図幅並びに同説明書. 34 p., 地調.
71. [——・丸山修司・物部長進・北卓治・三堀照夫]: 鳥取, 岡大県境人形峠県道切取りに発見されたウラン鉱床について. 地調月報, 9, (11), 743—756.
72. 1959 Genesis of the uranium deposit in Tertiary sediments in the Ningyo-togé area, western Japan. *Peaceful Uses of Atomic Energy, 2nd U.N. Geneva Conf.*, 2, 402-406.
73. [——, K. TAKAHASHI and M. SATO]: U-Scope, an electronic locator of radioactive sources applying the principle of radar. *Ibid.*, 3, 77-82.
74. 1960 Genesis of uranium deposits in sedimentary rocks. *Intern. Geol. Cong., 21st Session, Norden, 1960, Rept. Pt. 15*, 7-14.
75. 1961 堆積岩中のウラン鉱床の分類. 鉱山地質, 11, (45—46), 170—175.
76. 1966 自然科学の中における鉱物学の地位. 鉱物雑, 7, (6), 383—389.
77. 1969 ロウ石鉱床の生成機構と探査方針. 鉱山地質, 19, (93), 31—42.
78. 1970 [—— and I. FUKUOKA]: Ningyo-Toge uranium deposits. *IMA-IAIGOD Meetings' 70, Guidebook*, 8, 24-48.
79. 1973 鉱床と水. 九大理研報, [地質], 11, (2), 215—224.
80. [広渡文利・——]: EPMAによる登米スレートおよび那智黒泥岩の鉱物組成の検討. 九大理研報, [地質], 11, (2), 311—319.

#### 総説・解説

- 1933 パーカー氏の結晶作図法. 地質雑, 40, (481), 649—654.
- 1939 寶石に就て. 地学雑, 51, (606), 350—362.
- 1940 ニューメキシコ州のカリ鉱床. 地学雑, 52, (614), 179—180.
- 1947 鉱床量及び鉱量の定義. 地調速報, (33), 1—3.

5. 1949 窯業の岩石学. 地学雑, 58, (671—672), 172—176.
6. 1951 岩石の微量放射能の測定. 鉱山地質, 1, (1), 46—50.
7. 1952 半導体材料委員会におけるゲルマニウム資源に関する研究成果. 鉱山地質, 2, (6), 216—219.
8. 1954 ゲルマニウム. 化学, 9, 788—793.
9. 1955 金属鉱床に伴うゲルマニウム鉱物. 九鉱誌, 23, (12), 551—554.
10. 1957 日本のウラン資源. 窯協誌, 65, 285—288.
11. 人形峠のウラン鉱床. 化学と工業, 10, (8), 411—416.
12. 1958 レーダー式ウラン探査機 U-Scope. 鉱山地質, 8, (27), 57—59.
13. 1959 [——・加藤敏郎]: 鉱物の年令決定法. 鉱物雑, 4, (1—2), 56—81.
14. 西ヨーロッパおよび北アメリカのウラン鉱床. 鉱山地質, 9, (34), 119—123.
15. ウランの地球化学. 鉱物雑, 4, (4), 247—254.
16. 鉱滓の鉱物組成. 窯協誌, 67, 425—430.
17. 1961 ウランの鉱床. 科学, 31, (8), 398—404.
18. 1963 鉱物資源の将来性について. 地学雑, 72, (4), 151—155.
19. 1969 1968年のロプリング・メダルを受賞された伊藤貞市先生. 鉱物雑, 9, (3), 137—140.
20. 1971 汚染問題の地学的背景. 地学雑, 80, (1), 9—17.

#### 単行本

1. 1937 鉱物資源便覧. 大地書院.
2. 1938 本邦鉱物図誌. 第二巻, (伊藤貞市著, 執

- 筆担当), 大地書院.
3. 1953 褐鉄鉱床に伴うカリ・燐及び砒素. (鉱物新活用委員会編, 執筆分担), 碩学書房.
4. 1955 地学精義. 培風館.
5. 1956 ゲルマニウム. (ゲルマニウム研究委員会編, 編集ならびに執筆分担), 朝倉書店.
6. 1957 理科基礎講座. 11, 12. (錦木政岐編, 執筆分担), 岩崎学術出版.
7. 1961 ウラン, その資源と鉱物. (ウラン・トリウム鉱物研究委員会編, 編集ならびに執筆分担), 朝倉書店.
8. 地層と岩石の年代. (坂本俊雄編: 生命の歴史), 岩波書店.
9. 1963 地学精義. (改訂版), 培風館.
10. 1964 地学の教養. (編集, 執筆分担), 岩崎学術出版.
11. 1965 資源鉱物ハンドブック. (坪谷幸六他と共編, 執筆分担), 朝倉書店.
12. 1966 実験鉱物学. (日本鉱物学会編, 執筆分担), 共立出版.
13. 1967 地学精義. (三訂版), 培風館.
14. 地学の教養. (編集, 執筆分担), 岩崎学術出版.
15. 1970 新版地学辞典 I. (竹内均他と共編, 執筆分担), 古今書院.
16. 新版地学辞典 II. (森本良平他と共編). 古今書院.

#### 高校教科書

1. 1963 地学. (執筆分担), 中教出版.
2. 1967 新版地学. (監修, 執筆分担), 中教出版.
3. 1970 最新版地学. (監修, 執筆分担), 中教出版.
4. 1973 地学 I. (監修, 執筆分担), 中教出版.